



愛宕トリビア

前号でご案内いたしました、当信用基金は令和3年1月より東京都千代田区内神田から港区愛宕に事務所を移転しました。

移転前のコープビルがあったあたりは、かつては「鎌倉河岸」と呼ばれる荷揚げ場でした。江戸城の築城や徳川家康入城後の改修工事などの建築資材を、この近辺で荷揚げしたなかで、鎌倉からの石材が多かったことから、「鎌倉河岸」と呼ばれるようになったそうです。昭和30年頃まで河岸が実際に残っていたといわれ、「鎌倉橋」として橋の名前にその名残があります。

鎌倉橋から神田駅方面は新橋と並ぶサラリーマンの町です。昼食はもちろん、仕事帰りに一杯、というときにとてもお世話になりました。

さて、新しい事務所の所在地の「愛宕」は「あたご」と読み、町域の大部分を占めている愛宕山の名前に由来すると言われています。

愛宕山の頂には火防の神・愛宕権現ひぶせが祀られている愛宕神社があります（当ビルから徒歩約5分）。標高は約26メートルで天然の山としては東京23区の最高峰で、かつては頂上から東京湾や房総半島まで眺望できたようですが、現在は、ビル群に囲まれた都会のオアシスのようです。また、愛宕山にはNHKの前身である東京放送局があり、大正14年（1925年）に日本初のラジオ放送が開始され、現在はNHK放送博物館があります。

愛宕神社は防火を司る神様として有名で、「火遇要慎ひのようじん」と書かれた火伏せ札を台所などに貼ると御利益があるといわれています。

愛宕神社は全国に約900社あるといわれており、その総本宮は京都市右京区にあります。また、福岡市西区の愛宕神社と合わせて「日本三大愛宕神社」といわれています。



総本宮の愛宕神社は、大宝年間（701～704年）に創建され、1300年余の歴史があります。保元の乱など日本史の舞台として有名ですが、中でも、天正10年（1582年）5月、いわゆる本能寺の変の直前、明智光秀が愛宕神社にて連歌の会（愛宕百韻）を催し、その時に「時は今 あめが下しる 五月かな」の発句を詠んだことはよく知られています。

一方、東京の愛宕神社は、慶長8年（1603年）、江戸に幕府を開く徳川家康により防火の神様として祀られました。現在、各地に愛宕神社が祀られているのは、江戸時代、各藩武士が参勤交代の際に、これを地元を持ち帰ったことに由来しているのではないかとわれています。また、神社の正面には急な石段（男坂）があり、その石段は「出世の石段」（写真参照）と呼ばれています。その由来は、讃岐丸亀藩の間垣平

九郎が将軍家光の命により馬でこの石段を駆け上がり、出世したという故事にちなみます。斜度が40度もある石段を馬で駆け上がるのは不可能に思えますが、明治以降も3人が達成した記録が残っているそうです。

また神社では、運が良いと、マスコットの白猫と三毛猫に出会えるようです。筆者は残念ながら会えませんでした。皆さん、足を運んでみられてはいかがでしょうか。（F）